

平成 20 年度 設備投資計画

～ 鉄道事業を中心に総額 22,127 百万円 ～

< 主な投資項目 >

鉄道事業

一部特別車特急車両や瀬戸線用通勤型車両など計 50 両新造
SF カードシステムの最終整備と IC カード導入準備
バリアフリー化を始めとした駅の改良

開発事業

名鉄岐阜駅西に新商業駅ビル及び知多半田駅東口に賃貸ビルを建設

名古屋鉄道は、「鉄道サービスの向上」、「沿線不動産の再開発」を基本方針とする名鉄グループ新 3 カ年経営計画（平成 18 年度～20 年度）の最終年度となる平成 20 年度の設備投資計画をまとめました。

今年度の主な投資として、鉄道事業では、「特急政策の見直し」にともなう一部特別車特急車両 1700-2300 系や栄町乗り入れ 30 周年を迎える瀬戸線用通勤型車両 4000 系の新造のほか、SF カードシステムの最終整備及び IC カードの導入準備やバリアフリー化など駅の改良を実施します。また、開発事業では、名鉄岐阜駅西側の新岐阜百貨店跡地に新商業駅ビル「ECT(イクト)」を建設します。

総投資額は 22,127 百万円で、昨年と比較して 10,949 百万円減少しております。これは、昨年までに実施した名駅再開発など大型投資事業が一巡したほか、SF カードシステムの導入が今年度（平成 20 年度）で完了するためです。

事業別設備投資計画額の対前年比較は以下のとおりです。

< 事業別設備投資計画額内訳 >

(単位 百万円)

事業	平成 20 年度	平成 19 年度	前年との差額	(参考)平成 18 年度
鉄道事業	19,220	26,105	6,885	21,370
開発事業	2,391	6,092	3,701	16,780
その他	516	879	363	936
総額	22,127	33,076	10,949	39,086

鉄道事業 [19,220 百万円]

鉄道事業では、一部特別車特急車両と通勤型車両（計 50 両）の新造、西尾線の整備など輸送力増強に 7,152 百万円、SF カードシステムの最終整備や IC の導入準備、バリアフリー化を始めとした駅の改良などのサービス改善工事に 7,097 百万円、踏切保安設備や土木・電気設備の改良など旅客安全・運転保安工事に 4,971 百万円の計 19,220 百万円を投資します。

1 輸送力増強(7,152 百万円)

(1) 車両の新造

一部特別車特急車両の新造

「特急政策の見直し」にともない、ミュースカイを除く全車特別車特急を一部特別車特急に変更する計画の一環として、既存の一部特別車特急車両 2200 系に準じた装備の一部特別車特急車両 1700-2300 系を計 24 両(6 両組成×4 編成)製作します。1 編成(6 両組成)のうち、一般車の 4 両(2300 系)は車両を新造するもので、特別車の 2 両(1700 系)は全車特別車車両 1600 系を改造するものです。



1700 系-2300 系イメージ
先頭車は 1700 系(特別車)

瀬戸線用通勤型車両 4000 系の新造

瀬戸線の栄町乗り入れ(昭和 53 年 8 月 20 日)から 30 周年を迎えるのにあたり、車両の近代化を図るため、同線専用の通勤型車両 4000 系 4 両(4 両組成×1 編成)を新造します。4000 系は、当社の通勤型車両では初めて車内各ドアの上部にカラー液晶画面(15 インチ)の案内表示器を取付け、視覚的な情報提供を強化したほか、瀬戸線で初めてとなるステンレス車体を採用しています。バリアフリー対応も強化し、優先席を一両につき 10 席分設置するなど、交通弱



4000 系イメージ

者の方にも優しい設備としました。また、環境面にも配慮し、VVVF 制御など優れた省エネルギー、低騒音型の機器を採用しています。

通勤型車両 3150 系の新造など

ステンレス車体、VVVF 制御の省エネ通勤型車両 3150 系 14 両（2 両組成×7 編成）を新造し、旧型車両の更新を図ります。

また、「特急政策の見直し」にともない廃車した全車特別車特急車両 1000 系 16 両（4 両組成×4 編成）の主要機器（制御装置・台車・モーター等）を再利用し、新造したステンレス車体と組み合わせた 5000 系車両を 16 両導入します。

これらの車両はいずれもバリアフリー対応を強化したデザインを採用しています。



3150 系



5000 系

(2) 西尾線の整備

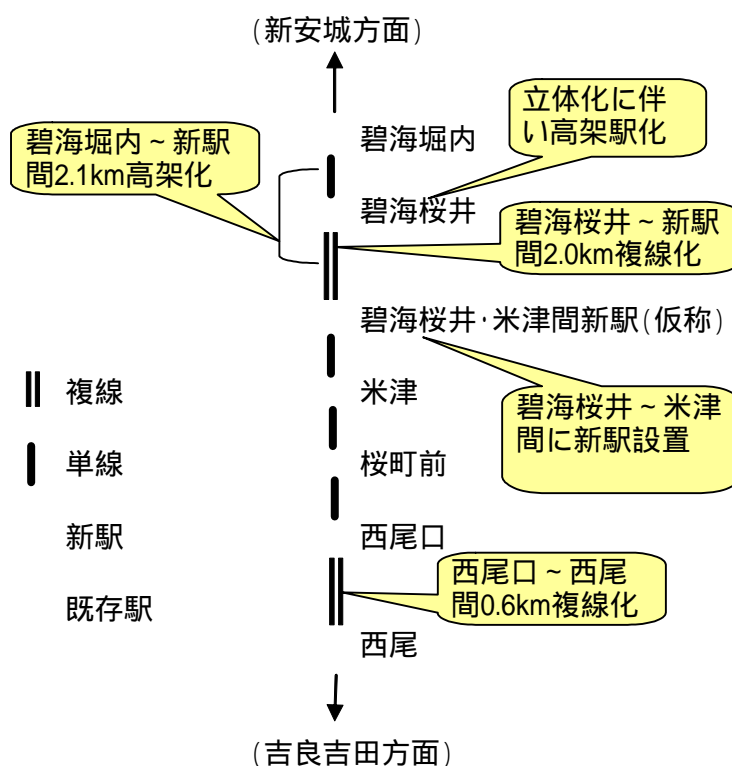
碧海桜井駅付近鉄道立体交差事業(事業主体:安城市)において、碧海堀内～碧海桜井・米津間新駅(仮称)間 2.1km が高架化されます。これにともない、碧海桜井駅が2面2線、6両対応の相対式ホームを設置した高架駅となります。

碧海桜井～米津間において、利便性や周辺交通の円滑化を図るため新駅を設置(仮称:碧海桜井・米津間新駅 設置予定地:愛知県安城市小川町水遣23、碧海桜井駅から1.6km、米津駅から2.1km 地点)します。同新駅には2面2線・6両対応の相対式ホームを設置するほか、SFカードシステム及び駅集中管理システムを導入し、自動改札機・自動券売機やインターホンを設置します。

碧海桜井～碧海桜井・米津間新駅間(2km)及び西尾口～西尾間(0.6km)を複線化し、列車運行の円滑化を図ります。

上記整備は全て7月頃の完成予定です。

【西尾線の整備 概略図】

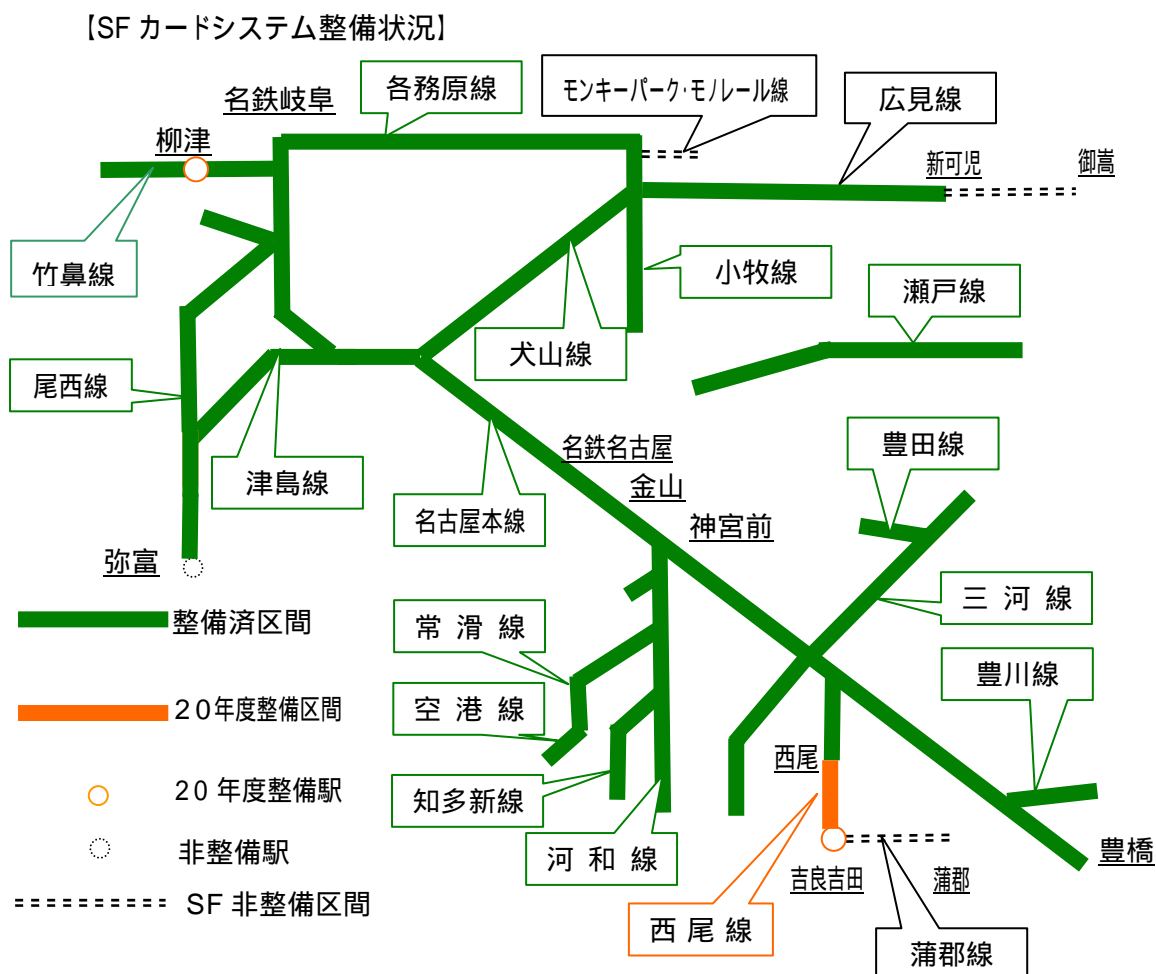


2 サービス改善工事(7,097 百万円)

(1) SF カードシステムと駅集中管理システムの整備

共通 SF カードシステム「トランパス」を西尾線未導入区間（福地・上横須賀・吉良吉田の 3 駅）及び碧海桜井・米津間新駅（仮称）並びに竹鼻線・柳津駅の計 5 駅に整備するとともに、駅集中管理システムもあわせて整備します。これにより平成 20 年度中にはモンキーパーク・モノレール線を除く全 275 駅のうち 261 駅で SF カードシステムが稼動する予定です。

なお、蒲郡線の 9 駅と広見線の 4 駅及び JR 関西本線との共同使用駅である尾西線・弥富駅には、SF カードシステムを導入しないこととし、同システムの導入整備は平成 20 年度をもって完了いたします。（モンキーパーク・モノレール線<犬山遊園～動物園間>は 12 月 28 日に廃止いたします）。



(2) IC カード導入準備等

平成 22 年度中に予定する IC カード導入に対応するため、耐用年数を経過した自動券売機や自動改札機などの駅務機器を IC カード対応が可能なものへ順次更新するほか、IC カードセンターシステムの開発を実施します。

(3) 音声情報システム

輸送障害発生時等における運行情報等の伝達スピードを上げるため、係員対象の情報を、旅客指令から各現場等に向けて一斉に放送できるシステムについて、平成 20 年度は瀬戸線などの有人駅 18 駅(20 箇所)のほか主な運転・信号取扱所にも導入します。これにより、平成 19 年度に導入した 88 駅・所(101 箇所)とあわせ、全有人駅に同システムが完備されます。

(4) バリアフリー化を始めとした駅施設の改良

バリアフリー化

平成 20 年度は、バリアフリー新法対象駅としては計 8 駅(名鉄一宮駅など)において工事完了を予定しています。(バリアフリー新法非対象駅の寺本駅を含めると計 9 駅で工事が完了する予定です)

これにより平成 20 年度中には、バリアフリー新法対象駅 74 駅(平成 19 年度現在)のうち、54 駅で段差解消工事が完了いたします。残る 20 駅については、平成 22 年度までに順次整備する予定です。

<平成 20 年度バリアフリー化工事完了予定駅一覧>

バリアフリー新法対象	駅名	エレベーター設置	多目的トイレ	その他
対象駅(8 駅)	東枇杷島	2 基		
	須ヶ口	3 基		
	名鉄一宮	3 基		
	笠松	2 基		
	西春	2 基		
	住吉町	—		注 1
	尾張旭	2 基		
	太田川	3 基		注 2
非対象駅(1 駅)	寺本	2 基		

注 1 スロープを設置

注 2 高架化にともなう仮駅化の際に段差を解消する予定

なお、平成 20 年度は上記のほか 6 駅においても設計や工事の着手を予定しています。

(5) その他の主な駅改良工事

各務原線・各務原市役所前駅周辺整備

各務原市が計画する各務原市役所前駅(各務原市那加桜町 2-102)周辺整備に伴い、北側に駅舎を新設します。新駅舎はスロープ等を設置したバリアフリー対応で、自動改札機・自動券売機などを設置します。また、同駅構内の渡り踏切と市民公園 2 号踏切の廃止及び各務原市役所前一号踏切の移設拡幅工事を実施します。



竹鼻線・柳津駅移設工事

柳津駅(岐阜市柳津町宮東 1 丁目 77)を現在の位置から西笠松駅寄り 230mの地点(同町梅松 1 丁目 1 - 2)に移設し、1 面 1 線、4 両対応の単式ホームを設置します。駅集中管理システムを導入し、自動改札機・自動券売機やインターホンを設置します。これにあわせて岐阜市による駅前広場の整備が予定されています。



豊田線・浄水駅改良工事

豊田厚生病院の移転などに対応し、浄水駅(豊田市浄水町伊保原 243)にエレベーター(2 基)や多目的トイレを設置しバリアフリー化するほか、駅舎の改築や階段移設によるホーム拡幅工事などを実施中です。なお、エレベーター及び多目的トイレについては、平成 19 年 12 月から暫定的に供用を開始しています



3 旅客安全・運転保安工事(4,971 百万円)

(1) 安全・保安対策

速度超過防止用 ATS を転てつ器用として吉良吉田、上横須賀など 12 駅に設置します。また、同じく終端用として伊奈、国府、矢作橋、大江、犬山の 5 駅に設置します。

ホーム転落対策として、列車の乗務員に異常を知らせる列車非常通報装置を黒田、扶桑、豊明など 15 駅に設置します。

(2) 踏切保安設備の新設・改良

視認性の高いオーバーハング警報機(1 カ所)や障害物検知装置(3 カ所)の新設および踏切遮断機(21 台)の更新を行います。

(3) 車両の改良

運転士が線路支障を発見した場合、付近を走行する他の列車に危険を知らせる列車防護無線の車上局を 52 編成に設置します。また、異常時に防護無線の電源を別電源に自動的に切り替える自動給電器を 58 両に設置します。

運転士が運転操作不能になった場合に列車を自動的に停止させる運転士異常時列車停止装置を 114 両に設置します。

運転状況を記録する運転状況記録装置を 102 両に設置します。

ホームから車両連結部への転落防止を図るため、固定連結部の車体側面に連結面転落防止幌を 14 編成に設置します。

(4) 土木施設の改良

列車走行音や振動を軽減するため、ロングレール化工事を名古屋本線名鉄名古屋～栄生間など延べ約 3.7km で実施します。

(5) 電気施設の改良

安定した電力供給を図るため、飛行場前変電所の改良工事をはじめ、沿線各所で変成機器や高圧遮断器など電力設備の更新、き電線の増強・改良などを実施します。

(6)立体化

安全対策の推進と都市計画事業の一環として、5 路線 4 カ所で立体化工事を実施します。

路線名	区間	距離	竣工予定
常滑線	新日鉄前～尾張横須賀間	2.0km	平成 22 年度
河和線	太田川～高横須賀間	0.7km	
三河線	三河知立～若林間	1.7km	平成 21 年度
西尾線	碧海堀内～ 碧海桜井・米津間新駅間	2.1km	平成 20 年度
瀬戸線	小幡～大森・金城学院前間	1.9km	平成 25 年度

開発事業 [2,391 百万円]

名鉄岐阜駅西側の新岐阜百貨店跡地に新商業駅ビル「ECT(イクト)」の建設工事について、準備が整い次第、着手します。同施設は鉄骨造 2 階建て、延床面積約 6,200 m²で、1 階に高質食品スーパー(パレマルシェ)、2 階に飲食・物販など 13～15 店舗が入居する予定です。平成 21 年春頃の開業を目標としています。

知多半田駅東口の社有地において、昨年に引き続き賃貸ビル(ビジネスホテル『名鉄イン知多半田駅前』<9 階建・客室数 171 室>)の建設を進めます。同ホテルの開業は平成 20 年 8 月頃の予定です。

名鉄バスターミナルビルにおいて空調機用クーリングタワーの更新や動力盤など動力設備の改良工事を実施するほか、当社所有ビル等 9 箇所において設備機器類の更新工事を実施します。

その他 [516 百万円]

大型汎用コンピュータシステムのサーバ化を進めるほか、職場内のコンピュータ機器類の更新を進めるなど、IT 環境の改善を図ります。空調機器類の更新など、職場環境の改善に努めます。

以 上